

製品安全データシート

会社名 東リ株式会社
CS環境室
住所 兵庫県伊丹市東有岡5-125
電話番号 06-6492-1331
作成日 1994年12月20日
改訂日 2012年 2月 6日

1 化学物質等及び会社情報	
製品の名称	巾 木 糊
緊急連絡先	東リ株式会社 CS環境室 TEL (06) 6494-1535 FAX (06) 6492-9037
推奨用途	ビニル系の巾木用接着剤。ビニル系床材壁面施工用接着剤
使用上の制限	JIS A5536に基づくF☆☆☆☆製品でありますので、使用上の制限はありません。但し、 下地湿気過剰（8%以上）の場合は、使用不可。

2 危険有害性の要約			
重要危険 有害性	人の健康に対する 有害な影響	溶剤の蒸気を吸入したとき、めまい、頭痛などの症状を起こすことがある。 皮膚や眼の刺激性が強いため、直接触れないようにする。	
	物理的及び 化学的危険性	引火しやすい液体。溶剤の蒸気と空気が混合して爆発性混合物を形成しやすい。 水に完全に溶解し、希釈を行ってもなお有毒で可燃性の混合物が生じる。水面上方に爆発性混合気が生じる。 4倍量の水に希釈して初めて可燃性でなくなる。	
	環境に対する有害 な影響	水生生物に対する有害性は認められていないが、一般環境中への流出や廃棄はなるべく避ける。	
GHS 分類	物理化学的 危険性	火薬類	分類できない
		可燃性/引火性ガス	分類できない
		可燃性/引火性エアゾール	分類できない
		支燃性/酸化性ガス類	分類できない
		高压ガス	分類できない
		引火性液体	区分2
		可燃性固体	区分外
		自己反応性物質および混合物	分類できない
		自然発火性液体	区分外
		自然発火性固体	区分外
		自己発熱性物質および混合物	区分外
		水と接触して可燃性/引火性ガスを発生する物質および混合物	区分外
		酸化性液体	分類できない
		酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類できない	
	金属腐食性物質	区分外	
	健康に対する 有害性	急性毒性（経口）	区分5
		急性毒性（経皮）	区分外
		急性毒性（吸入：ガス）	分類できない
		急性毒性（吸入：蒸気）	区分外
急性毒性（吸入：粉塵・ミスト）		分類できない	
皮膚腐食性・刺激性		区分1C	

		眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
		呼吸器感受性	分類できない
		皮膚感受性	区分1
		生殖細胞変異原性	区分外
		発癌性	区分1 A
		生殖毒性	区分1 B
		特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	区分1 (中枢神経系、視覚器、全身毒性、呼吸器系) 区分3 (気道刺激性、麻酔作用)
		特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露)	区分1 (中枢神経系、視覚器、呼吸器系、腎臓)
		吸引性呼吸器有害性	区分1
	環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分外
		水生環境有害性(慢性)	区分外
GHS ラベル 要素	絵表示又は シンボル	 炎/健康有害性/腐食性/感嘆符	
	注意喚起語	危険	
	危険有害性 情報	引火性の高い液体および蒸気 飲み込むと有害のおそれ 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 重篤な眼の損傷 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 発がんのおそれ 生殖能または胎児への悪影響のおそれ 臓器(中枢神経系、視覚器、全身毒性、呼吸器系)の障害 呼吸器への刺激のおそれ 眠気やめまいのおそれ 長期にわたる、または反復暴露により臓器(中枢神経系、視覚器、呼吸器系、腎臓)の障害 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ	
	注意 書き	安全 対策	<ul style="list-style-type: none"> ・床材の接着以外には使用しないで下さい。 ・火気のある所では使用しないで下さい。 ・屋外で取り扱うか、又は取り扱い作業場所には局所換気装置を設けて下さい。 ・有機溶剤作業主任者立会いのもとで使用して下さい。 ・蒸気の吸入を避けて下さい。 ・取り扱い中は、出来るだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じ防毒マスク、保護手袋などを着用して下さい。 ・取り扱い後は手洗いを充分に行ってください。 ・容器から出し入れする時は、こぼれないようにして下さい。 ・使用にあたっては製品安全データシート (MSDS) をご参照下さい。

	応急措置	<ul style="list-style-type: none"> ・吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させて下さい。 ・皮膚に付着した場合は、十分に洗い流して下さい。 ・汚染された衣類は脱ぎ、再使用する場合は洗濯して下さい。 ・眼に入った場合は、水で注意深く洗い流して下さい。又、コンタクトレンズを着用している場合は外せる場合には外し、その後も洗浄して下さい。 ・下記の場合は直ちに医師の診断/手当てを受けて下さい。 眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、身体上の異常が生じた場合、暴露又は暴露の懸念がある場合。 ・火災の場合には、安全に対処できるなら、火元への燃焼源を断ち、適切な消化剤を使用して消火します。 ・取り扱い作業は、飛散又は流出しないように留意して行うこととし、万一、飛散又は流出した場合には、ウェス等により直ちに拭き取り回収して下さい。
	保管	<ul style="list-style-type: none"> ・容器を密閉し、直射日光、湿気を避け、換気のよい5～35℃で保管して下さい。 ・法令で定められた限度内で、場所を決めて保管して下さい。
	廃棄	<ul style="list-style-type: none"> ・容器を含め廃棄は、関係法令に基づき、自社で適正に処理するか又は、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。(接着剤を燃やすと有毒ガスを発生します。)
	(備考) 国・地域情報	ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン等の厚生労働省が指定した化学物質及び、アスベストは含まれておりません。 ホルムアルデヒド放散量に関する表示 (JIS A 5536) : F☆☆☆☆☆ 日本接着剤工業会 VOC 自主管理規制による表示 : JATA 4VOC 基準適合 (登録番号 JATA 400440)

④

3 組成及び成分情報						
化学物質・混合物の区別		混合物				
化学名又は一般名		ビニル共重合樹脂系溶剤系接着剤				
危険有害成分 (危険有害不純物)		メタノール、フタル酸ジメチル、酢酸ビニル、酸化カルシウム、シリカ				
組成	化学名又は一般名	濃度範囲 (wt%)	CAS 番号	化審法	労安法	PRTR 法
	酢酸ビニル樹脂	15～20	9003-20-7	非該当	非該当	非該当
	酢ビ-アクリル共重合樹脂	5～10	79426-47-4	非該当	非該当	非該当
	メタノール	25～30	67-56-1	既存	表示、通知	非該当
	フタル酸ジメチル	5～10	131-11-3	既存	通知	非該当
	酢酸ビニル	0.3 以下	108-05-4	既存	通知	1-134
	炭酸カルシウム	15～20	471-34-1	既存	非該当	非該当
	酸化カルシウム	15～20	1305-78-8	既存	通知	非該当
	シリカ	1～2	14808-60-7	既存	通知	非該当
その他充填材等	5～10	—	非該当	非該当	非該当	

注) PRTR法は該当しません。(酢酸ビニルは1%未満のため、非該当となります。)

4 応急措置	
吸入した場合	患者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、速やかに医師の診断を受ける
皮膚に付着した場合	付着物を拭き取り、水と石鹸でよく洗う。かゆみ、炎症などの症状が出た場合は、速やかに医師の診断を受ける。
目に入った場合	流水で最低 15 分間以上洗浄する
飲み込んだ場合	水で口の中を洗い、直ちに医師の手当てを受ける。 無理に吐き出させないようにする。
予想される急性症状及び遅発性症状	有機溶剤中毒
最も重要な兆候及び症状	特になし
応急処置をする者の保護	口対口法を用いてはならない：逆流防止のバルブがついたポケットマスクや他の適切な医療用呼吸器を用いて人工呼吸をおこなう
医師への特別注意事項	物質名、防護のための注意を通知する。

5 火災時の措置	
消火剤	粉末消火剤、二酸化炭素、水の散布、耐アルコール性泡消火剤
使ってはならない消火剤	棒状注水をしてはならない
特有の危険有害性	蒸気が着火源まで達し、フラッシュバックするおそれがある。
特有の消火方法	火元への燃焼源を絶ち、消火剤を使用して風上から消火する。消化水をせき止め、後で廃棄する。物質を拡散させてはならない。
消火を行う者の保護	防火服は火災時に限られた防護をするのみ、直接に触れるおそれのあるときは製造者により推奨された化学用保護衣を着用する。(耐熱性無し)

6 漏出時の措置	
人体に対する 注意事項	漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の立入りを禁止する。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
保護具及び 緊急時措置	漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性が高い、不透透性の保護衣を着用する。空気式呼吸器（SCBS）を着用する。 全ての着火源を取り除き（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）、消火器材を準備する。
環境に対する 注意事項	危険でなければ漏れを止める。 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ
封じ込め及び 浄化方法・機材	多量の場合は、前方にせきを作り、火花の出ないシャベル等で密閉できる空容器にすくいとり、後で廃棄する。 乾燥した土砂や不燃材料に等に吸収させ、あるいは覆って容器に移す。
二次災害の 防止策	漏洩物を扱う時、用いる全ての設備は接地する。 吸収したものを集める時、きれいな帯電防止工具を用いる。 流出その他の事故が発生したときは、警察署、消防署等の関係機関に連絡する。

7 取扱い及び保管上の注意		
取扱い	技術的対策	火気厳禁。炎、火花、高温との接近、その他点火源となる恐れのある機械等の使用厳禁。
	局所排気・全体換気	取り扱いは換気の良い場所で行う
	接触回避	状況によって保護眼鏡、保護マスク、保護手袋等の保護具を着用する。
	安全取扱い注意事項	取り扱い後は手洗い、及ぶうがいを充分に行う。
保管	技術的対策	電気機器は防爆構造とするほか、消防法などの法令に定めるところに従う。
	混触禁止物質	特になし
	保管条件	直射日光を避け、容器を密栓し、35℃以下で保管する。
	容器包装材料	使用後の残りは容器に密栓をして、溶剤の放散を防ぐ。 容器の移し変えにあたっては、同種の缶製のものを使用する。

8 暴露防止及び保護措置					
	化学名又は一般名	管理濃度	許容濃度		
			日本産業衛生学会(2003年)	AGGIIT	
				TWA	STEL
成分	メタノール	200ppm	200ppm	200ppm	250ppm
	フタル酸ジメチル	—	—	5 mg/m ³	—
	酢酸ビニル	—	—	10ppm	15ppm
	酸化カルシウム	—	—	2mg/m	—
	二酸化ケイ素	—	—	0.025mg/m ³	—
保護具	呼吸器の保護具	状況に応じ、有毒ガス用防毒マスクを着用する。			

	手の保護具	状況に応じ、保護手袋等を着用する。
	目の保護具	状況に応じ、保護眼鏡を着用する。
	皮膚及び身体の保護具	状況に応じ着用する。
設備対策	局所排気装置等の排気のための装置を設置する。	
衛生対策	作業後、手を良く洗い、うがいをしてから飲食等をする。	

9 物理的及び化学的性質		
製品の外観	濃灰色ペースト状	
臭い	アルコール臭	
融点・凝固点	(メタノール)-97.8℃	(フタル酸ジメチル)55℃
PH	-	
沸点、初留点及び沸騰範囲	(メタノール)64.7℃	(フタル酸ジメチル)283.7℃
引火点	(メタノール)12℃	(フタル酸ジメチル)146℃
爆発範囲の上限・下限	(メタノール)6.0-36 vol%	(フタル酸ジメチル) 0.9(180℃)-8.0 vol%
蒸気圧	(メタノール)126mmHg	(フタル酸ジメチル) <0.01 mmHg
蒸気密度 (空気=1)	(メタノール)1.11	
比重 (相対密度)	約1.5 (20℃)	
溶解度	(メタノール)1000000mg/L	(フタル酸ジメチル) 0.43 g/100ml
自然発火温度	(メタノール)464℃	(フタル酸ジメチル)490℃

10 安定性及び反応性	
安定性	通常の取扱い条件においては安定。熱、火花、火炎で容易に発火する。
危険有害反応可能性	特になし
避けるべき条件	特になし
混触危険物質	特になし
危険有害な分解生成物	特になし

11 有害性情報	
急性毒性 (経口)	(メタノール) 区分外。ラット経口 LD50値=6200mg/kg (フタル酸ジメチル) 区分外。ラット経口 LD50値=5158mg/kg (計算値) (酢酸ビニル) 区分5。ラット経口 LD50値=2900mg/kg (酸化カルシウム) 区分5。マウス経口 LD50値=3059mg/kg
急性毒性 (経皮)	(メタノール) 区分外。ウサギ経皮 LD50 値=15800mg/kg (フタル酸ジメチル) 区分外。ラット経皮 LD50 値>4800mg/kg ウサギ LD50 値>11900mg/kg (酢酸ビニル) 区分5。ウサギ経皮 LD50 値=2335mg/kg
急性毒性 (吸入：ガス)	-
急性毒性 (吸入：蒸気)	(メタノール) 区分外。ラット吸入 LC50 (8時間) 値=>22500ppm (酢酸ビニル) 区分4。ラット吸入 LC50 (4時間) =11.4mg/L(3184ppm)。 3,184 ppm は飽和蒸気圧 11 kPa (20℃) における飽和蒸気圧濃度 110,000 ppm の90%より低い濃度である
急性毒性 (吸入：ミスト)	現在のところ知見なし
皮膚腐食性・刺激性	(フタル酸ジメチル) 区分外。ウサギの皮膚に反復適用した試験において皮膚刺激性は認められなかった。 (酸化カルシウム) 区分1C。皮膚に対して腐食性。湿った皮膚に対して強い刺激性。 (酢酸ビニル) 区分3。ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、軽度の刺激がみられた。

眼に対する重篤な 損傷・刺激性	(メタノール) 区分2A-2B。強い眼刺激を有す。 ウサギを用いた試験で軽度ないし中等度の眼刺激性が認められた。ヒトで角膜の障害、強度の結膜浮腫が一過性に認められた。 (フタル酸ジメチル) 区分2B。ウサギの眼への適用によりごく軽度～軽度な刺激性が認められた (酢酸ビニル) 区分2A。ウサギを用いた眼刺激性試験結果、強度の刺激性がみられた。 (酸化カルシウム) 区分1。眼に対して腐食性の記載と、皮膚腐食/刺激性のGHS分類が区分1Cである。
呼吸器感作性又は	現在のところ知見なし
皮膚感作性	(酢酸ビニル) 区分1。モルモットを用いた Buehler 法による皮膚感作性試験の結果、6/20匹に陽性の反応が得られた。 (酸化カルシウム) 区分外。ヒトの試験で陰性。
生殖細胞変異原性	(メタノール) 区分外。マウス赤血球を用いる小核試験で陰性であった。 (フタル酸ジメチル) 区分外。In vivo 小核試験で陰性 (酢酸ビニル) 区分2。生殖細胞 in vivo 変異原性試験 (小核試験) で陰性。 体細胞 in vivo 変異原性試験 (小核試験、染色体異常試験) で陽性。
発癌性	(フタル酸ジメチル) 区分外。EPA(1993年改訂)でDに分類されている。 (酢酸ビニル) 区分2。ACGIH (2001)でA3、IARC (1995)でGroup 2Bに分類されている。 (シリカ) 区分1A。産衛学会勧告は区分1に分類している。
生殖毒性	(メタノール) 区分1B。妊娠ラット及びマウスを用いた経口および吸入暴露試験で胎児奇形または胎児死亡の増加が認められたが、信頼性のあるヒト暴露例のデータがない。雄の生殖能力に対する影響は明らかではない。 (フタル酸ジメチル) 区分外。ラットを用いた妊娠中混餌経口投与試験において母動物に一般毒性が認められた用量でも生殖毒性は認められなかった。 マウスに混餌経口投与した試験において母獣毒性用量で胎児に異常は見られなかった。 (酢酸ビニル) 区分外。ラット及びマウスの生殖毒性試験、催奇形性試験において、生殖毒性がないか、毒性学的な意義が少ない、または最小限な影響のみ誘発する結果が得られている。
特定標的臓器・全身毒性 一回暴露	(メタノール) 区分1：中枢神経系、視覚器、全身毒性。区分3：起動刺激性、麻酔作用。 ヒトで急性経口または吸入暴露により中枢神経系の抑制および視覚器障害がみられた。ヒト暴露例で代謝性アシドーシスがみられた。 ラット反復吸入暴露試験で気道刺激性がみられ、ヒトで粘膜刺激症状がみられた。 ラット、マウス、アカゲザル等で麻酔作用が認められた。 (フタル酸ジメチル) 区分3：麻酔作用。 ヒトで経口摂取により中枢神経系の抑制をおこす、あるいはおこす可能性がある。 (酢酸ビニル) 区分3：気道刺激性 ヒトについては、呼吸器に対する刺激性が認められた。 (酸化カルシウム) 区分1：呼吸器系。区分2：全身毒性、消化器。 粉じん吸入は気道の炎症、肺炎を起こす。 誤飲すると脈が速く、弱くなり、呼吸が速く、浅くなり、体温が下がり、声門腫により呼吸をしにくくなりショック状態になる。 食道、胃の穿孔も生じるの記載もあるが、Priority2である。 (シリカ) 区分1：呼吸器系。 ヒトにおいて短期暴露でも吸入濃度が高い場合は呼吸器系に影響を及ぼす。

特定標的臓器・全身毒性 一反復暴露	(メタノール) 区分1：中枢神経系、視覚器。 ヒトの長期暴露例で中枢神経系の抑制および視覚器障害がみられた。 (酢酸ビニル) 区分2：呼吸器。 ヒトについて、「上気道の炎症」がみられた。 実験動物について、肺炎と鼻炎、鼻腔嗅上皮の萎縮、粘液分泌腺の萎縮、鼻腔嗅上皮の扁平上皮化生と萎縮、基底細胞の過形成がみられた。 (酸化カルシウム) 区分1：呼吸器系。 鼻中隔の潰瘍、穿孔の報告がある。 (シリカ) 区分1：呼吸器系、腎臓。 ヒトにおいて呼吸器系、腎臓に影響を及ぼす。
吸引性呼吸器有害性	(酸化カルシウム) 区分1。 ヒトで吸引性肺炎が報告されている。

12 環境影響情報	
生態環境急性毒性(水生)	(メタノール) 区分外。甲殻類(ブラインシュリンプ)24時間 LC50=900.73mg/L (フタル酸ジメチル) 区分3。魚類(シープスヘッドミノー)の96時間 LC50=29000μg/L (酢酸ビニル) 区分2。魚類(ヒメダカ)の96時間 LC50=2.39mg/L (酸化カルシウム) 区分外。魚類(コイ)の96時間 LC50=1070mg/L 7)
生態環境慢性毒性(水生)	(メタノール) 区分外。難水溶性でなく(水溶解度=1.00×106mg/L)、急性毒性が低い (フタル酸ジメチル) 区分外。急速分解性があり(BODによる分解度：93%)、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Pow = 1.6 ¹³⁾) (酢酸ビニル) 区分外。急速分解性があり(BODによる分解度：90%、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=0.73) (酸化カルシウム) 区分外。難水溶性でなく(水溶解度=1200mg/L 21)、急性毒性が低い
残留性・分解性	(メタノール) 良分解性 (フタル酸ジメチル) 良分解性 (酢酸ビニル) 良分解性
生体蓄積性	現在のところ知見なし
土壌中の移動性	現在のところ知見なし

13 廃棄上の注意	
残余廃棄物	産業廃棄物(廃油と廃プラスチック類の混合物)として許可を受けた処理業者に委託する。 乾燥し固形状になったものは、廃プラスチック類として同様に処理する。 焼却する場合は焼却設備を用いて少量ずつ焼却する。 その他、「産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の定めるところに従う。
汚染容器及び包装	空容器(缶)を廃棄する時は、残存内容物を完全に除去して処理する。

14 輸送上の注意	
国連番号	1133
品名(国連輸送名)	接着剤(引火性)
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	3(引火性液体)
容器等級	III
海洋汚染物質	該当せず
陸上輸送	消防法の規定に従う
海上輸送	船舶安全法の規定に従う
航空輸送	航空法の規定に従う
緊急時応急措置指針番号	133
特別の安全対策	運搬に関しては、容器の破損、漏洩がないことを確かめ、転倒、落卜、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 溶剤を含有しているので火気厳禁。

	その他、「消防法」「船舶安全法」の定めるところに従う。 (参考資料) 日本エマルジョン工業会編「合成樹脂エマルジョンの輸送事故対策指針」
--	---

15 適用法令		
化審法	既存化学物質	(メタノール) 既存科学物質 2-201 (フタル酸ジメチル) 既存化学物質 3-1301 (酢酸ビニル) 既存化学物質 2-728 (酸化カルシウム) 既存化学物質 1-189 (シリカ) 既存化学物質 1-548
	安全性(分解性・凝縮性)	(メタノール) 良分解性 (フタル酸ジメチル) 良分解性 (酢酸ビニル) 良分解性
	安全性(毒性)	該当せず
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)		(酢酸ビニル) 第一種化学物質 政令番号 1-134
毒物及び劇物取締法		(メタノール) 劇物、法律別表第2の83
労働安全 衛生法	表示対象物質	(メタノール) 法57条、政令第18条36号
	通知対象物質	(メタノール) 政令第18条の2別表第9の560 (フタル酸ジメチル) 政令第18条の2別表第9の480 (酢酸ビニル) 政令第18条の2別表第9の180 (酸化カルシウム) 政令第18条の2別表第9の190 (シリカ) 政令第18条の2別表第9の312
	有機溶剤中毒予防規則	(メタノール) 第二種有機溶剤、別表第六の二の42号
	変異原性を認められた化学物質	該当せず
オゾン層保護法		該当せず
大気汚染防止法		(メタノール) 特定物質、政令第10条6号 有害大気汚染物質、中環審答申の208 (フタル酸ジメチル) 有害大気汚染物質、中環審答申の171 (酢酸ビニル) 有害大気汚染物質、中環審答申の65 (シリカ) 有害大気汚染物質、中環審答申の109
水質汚濁防止法		該当せず
有害物質家庭用品規正法		(メタノール) 政令番号18 家庭用エアゾル製品
消防法		危険物第2類引火性固体 (危険等級III)
船舶安全法		(メタノール) 危険物 引火性液体類 (中引火点引火性液体)
悪臭防止法		該当せず

16 その他の情報	
出典・参考文献	製品安全データシートの作成指針: JIS Z7250-2005 「化学物質等安全データシート (MSDS) ー第1部: 内容及び項目の順序」による
	化学物質の危険、有害便覧
	産業中毒便覧
	GHS分類結果データベース
	危険物船舶運送及び貯蔵規則 各社使用化学製品の「製品安全データシート」

【ご注意】

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

又、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであつて、特別な取り扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。

危険・有害性の評価は必ずしも充分でないので、取扱いには充分注意して下さい。